

乳腺外科

診療科の紹介

乳腺外科は常勤医1名と非常勤医師1名の2名体制で診療を行なっています。乳腺疾患の診断・治療を幅広く行っており、乳がんと診断された場合は手術療法・薬物療法・放射線療法の組み合わせにより、個々の患者さんに最適の治療を提案いたします。診療には医師のみならず看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・リハビリテーション技士など複数の職種によるチーム医療体制を整え患者さんが安心して治療を受けていただけるよう努めています。

取り扱う主な疾患

- 乳房に何らかの自覚症状がある(しこり・ひきつれ・分泌物など)
- 他院で乳がん検診を受診し「要精密検査」「要再検査」と判定された

当科の特徴

乳腺疾患の診断はマンモグラフィと乳房超音波検査が基本となります。マンモグラフィ装置はトモシンセシスという1mm毎の断層撮影が同時に撮れる装置を導入しており、従来の装置では正常乳腺に重なって発見や観察が難しかった病変が診断しやすくなっています。

院で異常を指摘された場合、検診で要精査となった場合など、上記の検査以外にCT・MRIなども含めて当院で精密検査が出来ますので遠慮せず受診してください。



従来のマンモグラフィ撮影(2D撮影)に加え、最新のトモシンセシス機能(3Dマンモグラフィ)も搭載されています。撮影は女性技師が担当しています。

スタッフ紹介



院長
消化器・肝臓病名誉センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
井上 征雄
いのうえ まさお

(非常勤医師)
乳腺外科
田上 貴之
たのうえ たかゆき